

平成27年度 第2回多摩区地域福祉計画推進会議 会議録

会議の概要

開催日時	平成28年3月9日（水）15時00分から16時40分まで	
開催場所	多摩区役所1階 第一相談室	
出席者の氏名	委員	<p>柴原君江（田園調布学園大学参与）</p> <p>有北いくこ（NPO法人 ままとんきっず理事長）</p> <p>青木義明（多摩区食生活改善推進員連絡協議会 会計監査）</p> <p>清水伊都子（菅第1地区民生委員児童委員協議会 副会長）</p> <p>山口正芳（長沢・南生田地区すこやか活動 推進委員会代表）</p>
	事務局	<p>中村健（多摩区医師会会長）</p> <p>原田知治（多摩区社会福祉協議会会長）</p> <p>森本千恵美（区民委員）</p> <p>岡本次郎（多摩区老人クラブ連合会副会長）</p> <p>菅野麻美（太陽の園地域包括支援センター長）</p> <p>川澄晶子（多摩区社会福祉協議会地域課長）</p>
欠席委員	<p>三竹隆雄（多摩区町会連合会会長）</p> <p>初田温子（区民委員）</p> <p>白石大樹（自立支援協議会）</p>	
内容	<p>1 開会</p> <p>（1）多摩区における地域包括ケアシステムの推進に向けて</p> <p>（2）区役所の組織改正について ～地域みまもり支援センターの設置～</p> <p>2 議事</p> <p>今年度の多摩区地域福祉計画の取組結果について</p> <p>3 その他</p> <p>次回日程</p>	
傍聴人の数	0名	
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・会次第 ・座席表及び委員名簿 ・第4期多摩区地域福祉計画 平成27年度の主要な取組について ・資料1～7 各課の取組結果 ・地域のみまもりとネットワークで進める子育て支援 ・多摩区における地域包括ケアシステムの推進に向けて ・誰もが住みなれた地域や自ら望む場で安心して暮らし続けるために ・安心して暮らし続けるために ～地域包括ケアシステムの推進～ 	

議事要旨

発言者	発言要旨
事務局 (林所長)	第1回地域福祉計画推進会議 開会の挨拶
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・新委員の紹介及び出席状況 ・会議公開のお知らせ ・資料の確認
事務局	(1) 多摩区における地域包括ケアシステムの推進に向けて池上係長より説明。
事務局	(2) 区役所の組織改正について滝口課長より説明。
事務局	何か質問はあるか。
有北委員	地域ケア推進担当が担うのは、どのような地域の範囲を想定しているのか。
事務局	<p>中学校区・小学校区・地域包括支援センターエリア等、色々と検討した。</p> <p>中学校区については、区境の地域が他区の学区になっているなどの問題があった。地域包括支援センターのエリアだと高齢者人口をベースに区割りがされているため、一部地域においては地域性が感じられないところがある。地域福祉活動は、地区社協や町内会を中心に行われているため、地区社協をベースにエリア分けをした。登戸・中野島、菅、稲田、生田1、生田2の5地区に分けている。</p>
青木委員	<p>地区ごとの関係者が、一堂に会するような会議体を立ち上げる予定はあるのか。</p> <p>まず、この地域ではこのようなかたちで進めたいというような会を持つのかどうか知りたい。</p>
事務局	平成30年度までが地域包括ケアシステムの土台づくりとしている。皆さんの協力を得ながら、協議体の設置を考えていきたい。
有北委員	<p>組織説明の中で、子どもから高齢者まで一体となった地域づくりを推進するとあるが、この間に落ちている世代が一番難しい問題を抱えている。18歳～30・40歳くらいの引きこもり問題が大きい。数字の上でも把握されておらず、表に出ない。いじめや不登校から引きこもりになって、長期化する傾向もある。また、貧困家庭の問題もあるなか、どこまでそういう対象者も含めて支援していいのか、課題としてあることを意見としてあげておきたい。</p>
事務局	次に、議事へ入らせていただきます。柴原委員、座長をお願いいたします。
柴原委員	それでは議事に入らせていただきます。今年度の多摩区地域福祉計画の取組結果について、基本目標1「保健福祉に係わる区民・団体間の連携強化とサービスの向上」の取組結果から説明をお願いします。
事務局 (高齢・障害課)	地域ケア会議・地域包括ケア連絡会議、多摩区地域自立支援協議会、多摩区精神保健福祉連絡会議について説明。
事務局 (子ども支援室)	多摩区子ども総合支援連携事業について説明。
事務局 (地域保健福祉課)	地域福祉ネットワークづくり事業について説明。
柴原委員	何か意見や質問はあるか。
有北委員	地域福祉ネットワークづくり事業の防災ウォークについて、例えば中学生や高校生を巻き込んだりと学校連携も考えていくとよいのではないかと。

発言者	発言要旨
山口委員	学校は防災訓練をしているが、問題なのはそのような機会に恵まれない小さいお子さんをお持ちの親子ではないかと考えて、参加対象を選択した。
有北委員	今回の主旨については理解している。他都市では、中学生や高校生が防災の主たる担い手になるという活動も行われているので、今後開催する場合には考慮してみてもどうかと思い、意見を述べた。
森本委員	精神保健福祉連絡会議の講演会「子どもたちのメンタルヘルスを考える」へ出席し、スクールソーシャルワーカーの視点における話を聞いた。地域で支援が必要な家庭との結びつきという観点で、どのようにスクールソーシャルワーカーの仕事が根付いていくのか、どのように学校へ配置されていくのかを知りたい。
事務局	実際にどのような動きをしていくのかまでは、お答が難しい。
森本委員	わかりました。
柴原委員	続いて、基本目標2「地域でのつながりの推進」の取組について報告をお願いします。
事務局 (地域保健福祉課)	パサージュ・たまについて説明。
事務局 (こども支援室)	多摩区こどもの外遊び事業について説明。
事務局 (地域保健福祉課)	介護予防事業について説明。
柴原委員	何か意見や質問はあるか。
	意見・質問なし。
事務局	基本目標3「多様な人材の参画と人材の育成」の取組について報告をお願いします。
事務局 (地域保健福祉課)	地域福祉啓発事業について説明。
事務局 (生涯学習支援課)	地域課題解決につなげる地域人材育成事業について説明。
柴原委員	何か意見や質問はあるか。
	意見・質問なし。
柴原委員	最後に、全体を通して何か意見や質問はあるか。
有北委員	森本委員から指摘のあった件について、補足させていただく。 現在、川崎市子ども・若者ビジョンが案としてパブリックコメントで示されている。その79ページに、児童生徒指導・相談事業と適応指導教室事業が28年度そして29年度以降も継続して実施していくことが記載されているので、スクールソーシャルワーカーの取組も推進されていくのではないかと。
柴原委員	最後に、事務局よりその他について説明をお願いします。
事務局	平成28年度第2回の会議日程について、平成28年6月22日(水)14時～にて調整。 第3回チーム・たま一般公開講座のお知らせ 平成28年3月18日(金)
	閉会